王丸浦ノ田

福岡県糸島郡前原町大字王丸所在遺跡調査報告

前原町文化財調査報告書

第 11 集

1984

前原町教育委員会

王丸浦ノ田

福岡県糸島郡前原町大字王丸所在遺跡調査報告

序　　文

本町は，福岡県，佐賀県の県境である背振山山系の北側に位置していますのでこの山系より北流する河川は割合に急流であるようです。

よって，福岡県・本町では，河川の管理などに努力をしています。

このたびの王丸浦ノ田古墳群の発掘調査は，福岡県が施行する災害防止のための砂防ダム建設に伴うものであります。

この王丸浦ノ田古墳群は以前から，その所在は知られていましたが，現在まで発掘調査されたことはなく，今後，福岡県前原土木事務所の協力を得て，一部を発掘調査をすることになりました。

本書は，発掘調査の成果であり，古墳群の全体的な実態を把握するには十分なものでありますが，今後の研究などの資料にご活用していただければ幸いです。

最後に，福岡県前原土木事務所や地元方々の御援助を受けましたことに対して厚く感謝の意を表します。

昭和59年３月31日

前原町教育委員会
教育長　豊島　禮蔵

例　　言

1．本書は，福岡県糸島郡前原町大字王丸に所在する古墳群の発掘調査の記録である。

2．調査は，福岡県前原土木事務所の委託を受け，前原町教育委員会が調査主体となった。

3．本書に記載した実測・写真は前原町教育委員会社教育課職員・同課曽根文化財復元室関係者でおこなった。

4．本書の題字は，遺物復元に従事した柏田睦子さんによるものです。

5．本書の執筆・編集は，鍋嶋さとみ・石井扶美子・常松幹雄の協力を得，川村博がおこなった。

目　　次

頁

Ⅰ．調 査 の 経 過 ……… 1

Ⅱ．遺 構 と 遺 物 ……… 4

(1) 概要 ……… 4

(2) 1号墳 ……… 5

墳丘 ……… 5

主体部 ……… 5

出土遺物 ……… 7

(3) 2～4号墳 ……… 11

墳丘 ……… 11

主体部 ……… 11

出土遺物 ……… 11

Ⅲ．ま　と　め ……… 12

Ⅰ. 調査の経過

王丸浦ノ田古墳群は，福岡県糸島郡前原町大字王丸に位置する。

この発掘調査の契機は，福岡県前原土木事務所が立石川の砂防ダム建設に伴い，砂防ダム施工箇所に古墳が存在していることがわかり，同事務所より前原町教育委員会に連絡があった。

第１図　発掘調査風景

よって，両者で協議し，前原土木事務所の委託を受け，前原町教育委員会が発掘調査を実施することになった。調査は昭和58年11月10日から12月４日まで実施し，その後，出土品の整理をおこなった。

なお，発掘調査・砂防ダム建設に伴う関係者は次のとおりである。

発掘調査　前原町教育委員会

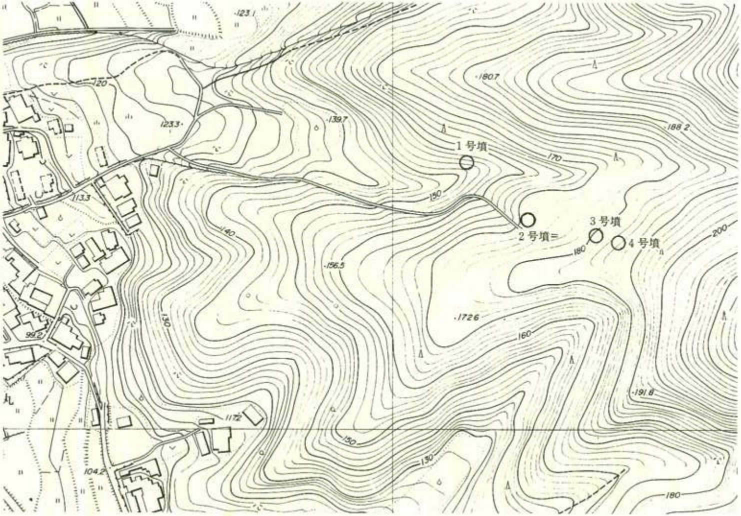
総活	教育長	豊島　禮藏		
	社会教育課課長	野坂　献英	社会教育課文化係係長	吉村　耕治
庶務	社会教育係係長	中原　直國		
	主事	久保　静代	臨時職員	黒川多鶴子
調査	社会教育課文化係主事	川村　博	社会教育課文化係嘱託	常松　幹雄

荒砂砂防工事　福岡県前原土木事務所

総活	所　長	池浦　正	次　長	伴　純
用地	総務課課長	青木　優	総務課用地係係長	津原　孝教
	用地係主任主事	白石　和久		
担当	工務課課長	中原　明夫	工務課第三係係長	齋田　護
	第三係主任技師	水崎　栄二		

また，発掘調査にあたり，王丸・三雲・井原・飯原行政区の方々に作業員として参加していただき，石井扶美子・鍋嶋さとみさんには出土遺物の整理等に協力していただいた。なお，発掘調査と，工事が同時期になり，施工業者の春田建設株式会社（代表取締役社長　春田　仁）の松崎正義・加藤星香両氏には多大なご協力をいただきました。

第 2 図　王丸浦ノ田古墳群付近地形図（1/50,000）



第 3 図　王丸浦ノ田古墳群付近地形図 (1/2.500)

II. 遺構と遺物

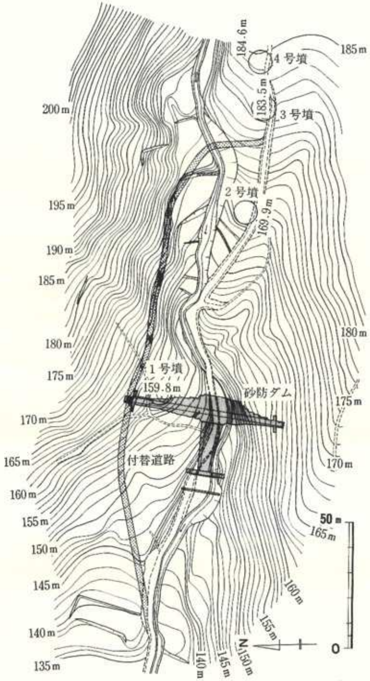
(1) 概　要

王丸浦ノ田古墳群は，背振山山系の一つである王丸山（標高453.0m）の西側山麓部（標高155～185m）に位置する。

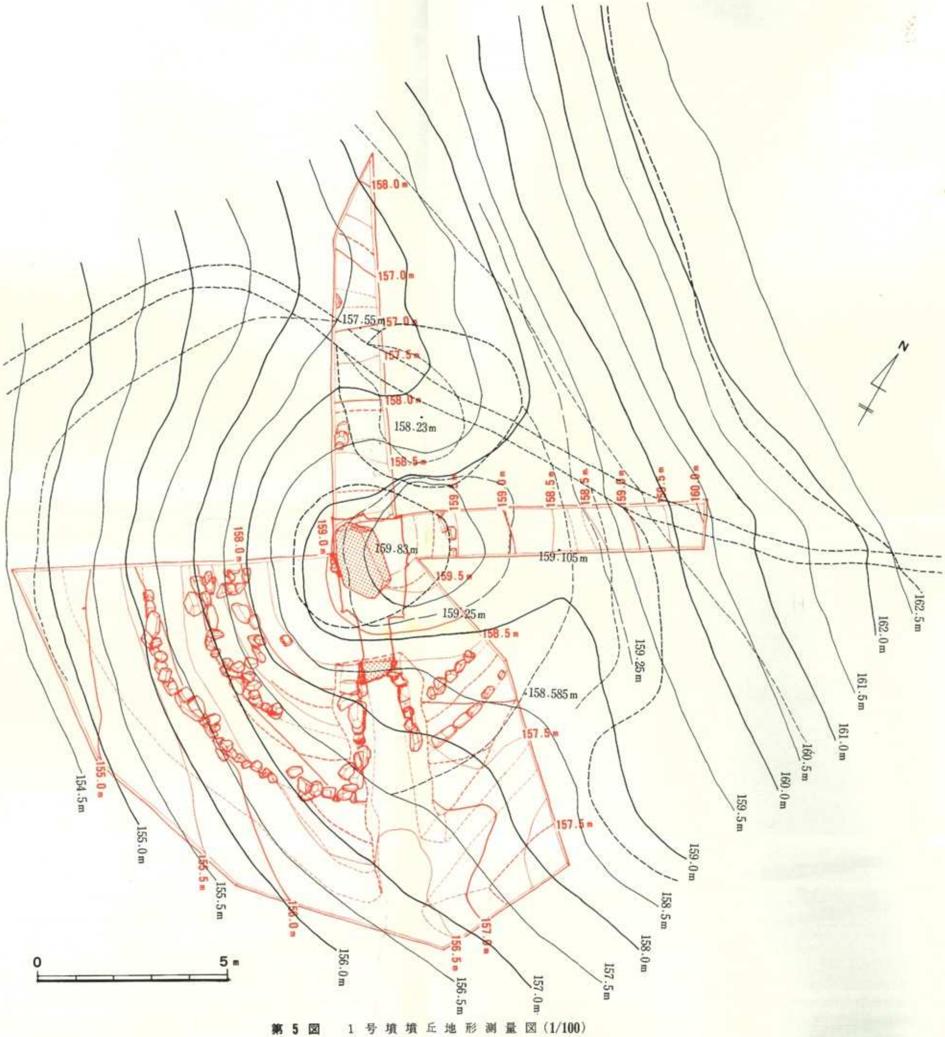
発掘調査を実施した古墳を1号墳とし，4号墳まで存在し，谷間の斜面から尾根線付近に立地している。

この古墳群の北側には末永ムカエ古墳群が，王丸山北側山麓部にはマタエ古墳群・マツガウラ古墳群が存在する。末永ムカエ古墳群の2号墳は径20mで葺石をもち，4号墳は前方後円墳であり，北西側の眺望のきく丘陵上に立地しているため，盟主的な墳墓であると考えられる。

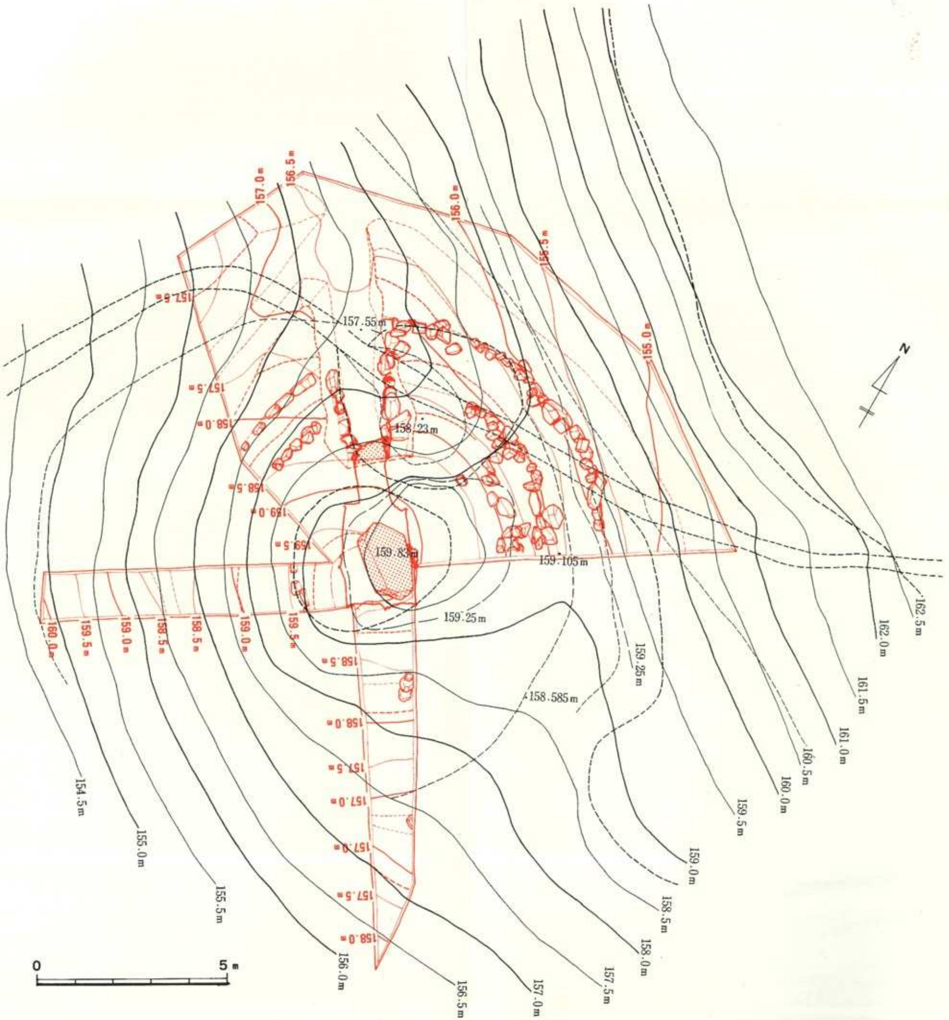
また，昭和53年度に，いと・しま古代文化研究会と糸島高等学校歴史部により周囲の分布調査がおこなわれている。



第4図　王丸浦ノ田古墳群付近地形地（1/1,500）



第5図　1号墳墳丘地形測量図（1/100）



第 5 図　1 号 墳 墳 丘 地 形 測 量 図（1/100）

(2)　1号墳

墳丘（第5～6図）

標高155～159mの尾根斜面上に立地する円墳である。地形測量時の古墳の径は約13～15,9mを測る。墳頂標高は159.83mで，墳裾との比高は，比東側で約0.7mで，南西側で約4.8mである。

墳頂には天井石が露出している。北西部墳丘は一部崩壊している。墳丘表面の南側では，須恵器破片を採集できた。

調査は，トレンチを設定して，墓道部両側を拡幅し，調査区を設定した。

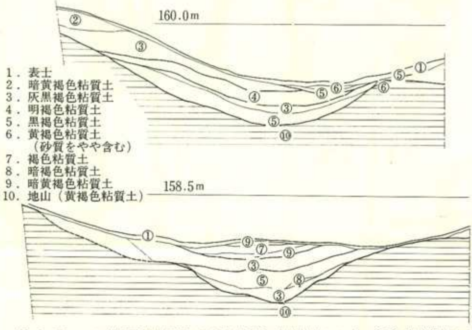
墳形の径は，主軸線上で約15.3m・主軸線直交線上で約13.8mを測る。

周溝は，北から東南側で地山を掘削している。巾約1～2.3mを測る。周溝埋土は，部分的に灰褐色粘質土が底部にみられ，黒褐色粘質土をみる。大きく観察すれば，3度にわたり，埋ったようである。

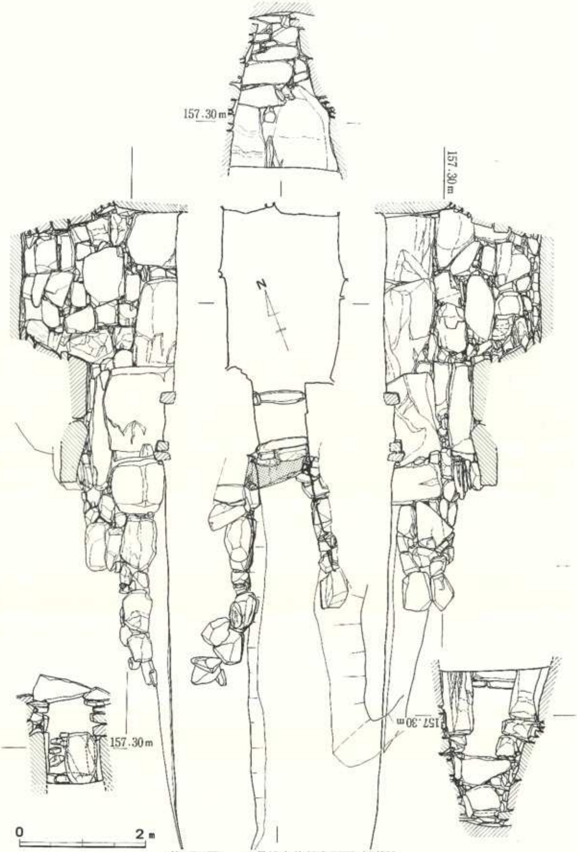
墳丘は3段築成で列石をみる。墳丘斜面に30～100cm大の花崗岩質の石材で，列石を築いている。列石は谷間側で強固にしている。

主体部（第7図）

主体部は横穴式石室で，複室である。全長は，墓道部まで含ること約9.30mを測る。石は花は花崗岩質を主に使用している。



第6図　1号墳周溝土層図（1/60）（〔上〕西北側トレンチ・〔下〕東北側トレンチ）



第 7 図　1号墳主体部実測図（1/60）

後室は，長方形プランで，長さ約2.8m・巾約1.9m・高さ約2.5mである。奥壁は２個の石で築き，側壁などの腰石は70～85cmの高さの石を用いている。天井石までは割合に大きめの石材を用い，天井石は１枚である。

前室は，長方形プランで，全長約0.55m・巾約0.8m・高さ約1.2mを測る。天井石は後室から羨道部にわたり，架交しており，２枚使用している。

閉塞部は部分的に破壊されている。

羨道部は，ほぼ水平で，両側に雑に石を積んでいる。墓道部までの長さは約5.3mを測り，巾0.9 ～1.3m・巾0.9～1.3mを測る。

なお，前室・後室の床石は攪乱がひどく，ほとんど残存していなかった。

出土遺物（第８～10図・第１表）

主体部・墓道部・墓道部右側の２段目の平担部にて出土した。主体部からは須恵器（短頸壺高坏）・鉄器（鉄斧）・装身具（耳環・管玉・丸玉・小玉）が，墓道部から須恵器（坏蓋・𤭯・高坏・甕）が，墓道部右側平担部からは，須恵器（坏蓋・坏身・𤭯）が出土した。また，墓道部の右側の周溝埋土の中位から，全器種の須恵器・土師器（坏蓋・坏身・高坏）が出土した。赤焼き土器は出土していない。

なお，周溝埋土内の出土土器は，墳丘段築の平垣部に埋納されていたものが流入し，それは墓前祭紀という性格のものと考えられる。

須恵器

坏蓋（４・５・９）　４は口縁部に内傾し，５・９は外反する。天井部はすべてヘラ削りで，天井部内部をヨコナデ後ナデているのは４のみである。ヘラ記号をもつものは４・５である。

坏身（10）　口縁部は内傾し，底部はヘラ削りで，他はヨコナデである。坏蓋９とセットになる。

短頸壺（１）　口頸部は直立し，肩部から胴部ではカキ目，底部はヘラ削りである。

高坏（２・３・８）　２・８は脚部に２段の長方形の透しをもつものである。３は円形の透し孔で５カ所ある小形の高坏である。

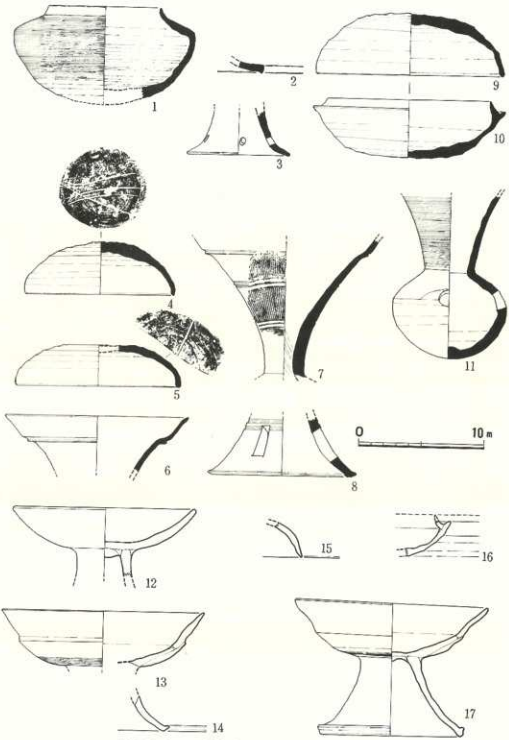
𤭯（６・７・11）　６はヨコナデ調整で，７は頸部の２ケ所に２条の沈線をみ，沈線間などにカキ目状の調整をみる。11は頸部にカキ目をみる。

土師器

坏蓋（15）　口縁部が外反する。調整は不明である。

坏身（16）　底部へラ削りが受け部付近までみる。

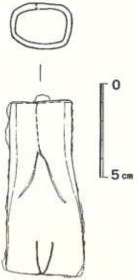
高坏（12～14・17）　12は坏部に稜をもたず，口縁端部を丸くおさめている。13・17は坏部に稜をもつものである。



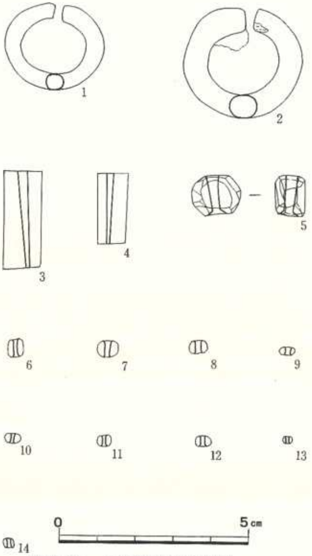
第 8 図　1号墳出土土器実測図（1/3）

No.	器種	法量(cm)	胎土	色調	焼成	ロクロの回転	ヘラ記号	特徴	分類
1号墳出土土器									
1	短頸壺	口径（9.0） 胴部径（14.5） 器高 —	わずかに砂粒を含む	灰白色	堅緻で良好	左廻り		肩部～胴部カキ目 口頸部直立	B_1
2	高坏		同上	青灰色	同上				B_1
3	高坏	脚部径（8.2）	砂粒は含まず	青灰色	同上	左廻り		透孔5ヶ所	B_2
4	坏蓋	口径（11.8） 器高 4.2	同上	淡茶灰色	精緻であるがややあまい	右廻り	○	口唇部を丸くおさめる	B_5
5	坏蓋	口径 13.0 器高 3.3	微砂粒を含む	濃青灰色	堅緻で良好	右廻り	○	同上	B_5
6	𤭯	口径（14.6）	微砂粒を含む	淡青灰色	同上			口頸部ヨコナデ	B_1
7	𤭯	頸部径（3.05）	砂粒を含む	同上	精緻で良好	右廻り		頸部にカキ目状調整	B_2
8	高坏	脚部径（11.8）	微砂粒を含む	青灰色～灰色	堅緻で良好	右廻り		透孔3ヶ所	B_1
9	坏蓋	口径 15.0 器高 5.0	同上	灰色	同上	左廻り	×	口唇部を丸くおさめる	B_4
10	坏身	口径 12.9 受部径 15.35 器高 4.6	同上	同上	同上	左廻り	×	立上りが内傾する	B_2
11	𤭯	胴径 9.1	同上	青灰色～灰色	同上	右廻り		頸部にカキ目	B_2
12	高坏	口径（14.6）	砂粒を含む	赤褐色	ややあまい			口唇部を丸くおさめる	B_2
13	高坏	口径（16.1）	同上	灰褐色	同上	右廻り		坏部にカキ目	B_1
14	高坏		同上	淡赤褐色	精緻で良好	右廻り			
15	坏蓋		同上	灰褐色	ややあまい				
16	坏身		同上	灰褐色～黒灰色	同上	左廻り		ヘラ削りが深い	
17	高坏	口径（15.4） 底径 11.0 器高 10.55	砂粒含まず	淡赤褐色	精緻で良好	左廻り		坏部にカキ目	B_1
2号墳出土土器									
1	坏蓋	口径 13.2 器高 3.4	わずかに砂粒を含む	暗青灰色	精緻であるがややあまい	左廻り	×		B_3
2	坏蓋	口径（15.0） 器高（4.4）	砂粒を含む	青灰色	堅緻で良好	左廻り			B_2
3	坏蓋	口径（14.5）	同上	灰色	同上	左廻り		口縁部内面に沈線をみる	B_1
4	坏蓋		微砂粒を含む	灰青色～灰色	同上	左廻り			A
5	坏蓋	口径（16.0）	砂粒を含む	青灰色	同上	左廻り			B_2
6	坏身	口径（13.0） 受部径（15.35） 器高（4.9）	砂粒を含む	青灰色	同上	左廻り			B_1
7	坏身	受部径（15.0）	砂粒を含む	青灰色～灰色	同上	左廻り			B_2

第 1 表　1号墳出土土器一覧表



第 9 図　　1号墳出土鉄器（1/2）



第 10 図　　1号墳出土玉類（1/1）

鉄器

鉄斧　全長9.2cm・復元刃部巾約4cmを測る袋状鉄斧である袋部のつぎめはさびて不明であるが，袋部形状は隅丸長方形状を呈する。

装身具

耳環（1・2）　1は腐蝕が著しく，表面は不明である。2は銀メッキで一部はがれかかっている。

管玉（3・4）　碧玉製であり，片側から穿孔している。

丸玉（5）　碧玉製で，側面は平坦で稜をもつ。

小玉（6～14）　9個出土した。色調は，6～11がライトブルー，12がコバルトブルー，13・14がグリーンである。

(3)　2～4号墳

墳丘

2～4号墳の墳形は円墳で，径約15～18mを測る。2号墳は墳裾が山道によって削平され，墳頂部の削平も受け，天井石が石室内に落ち，石室が露出している。3号墳は2号墳と墳裾が削平され，羨道部石積みが露出している。4号墳も同様で3号墳に比べると削平度が大きい。

主体部

2～4号墳の主体部は，単室の横穴式石室である。2号墳の石室は前述したように露出している。長方形プランである。3・4号墳は羨道部が露出している。

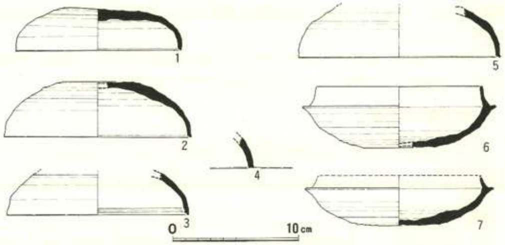
出土遺物（第11図）

2～4号墳は発掘調査の対象でないため，山道で削平をうけた墳裾で採集できた須恵器を報告することにする。なお，図示した2号墳採集のみである。

須恵器

坏蓋（1～5）　1は口縁部が直立し，2，5は口唇部が外反する。3は口縁部内面に沈線をみる。4は口唇端部に沈線をみる。

坏身（6・7）　6は口縁部が直立し，口唇部をやや丸くおさめる。7は口縁部が内傾し，口唇部を欠損する。



第11図　2号墳出土土器（1/3）

Ⅲ．ま と め

墳丘の立地状況などについて

王丸浦ノ田古墳群は，王丸山山麓部に群集する一つの古墳群であるが，標高155～185ｍの尾根線・谷間斜面に立地している。

他の古墳群の立地などの分布調査が確実に把握できていない現状ではあるが，立地状況を若干考えてみたい。

１号墳は，尾根の谷間斜面に立地しているが，斜面をある程度地山整形を実施していることは，墳丘の東側などの周溝を掘削していることで理解でき，地山整形が可能な地点を選地したのであろう。

２～４号墳は，別の尾根線上に立地し，２～４号墳の順で，尾根づいたに選地されている。これらの古墳は，古墳築造のための企画性を含めた選地の点においても，１号墳に比しても簡単であったと考える。

１号墳と２～４号墳は第３・４図にみるように，別の尾根斜面・尾根線上に選地され，立地していることを考えれば，王丸浦ノ田古墳群の別支群として考えることができる。

上述のように推測すれば，１～４号墳の墓道の存在をある程度考えられよう。

１号墳の羨道部・墓道部に続く準幹線的な墓道は，１号墳の低位地の西南側に存在していたであろう。２～４号墳の準幹線的な墓道は，２～４号墳の立地する尾根の南側斜面に存在していたであろう。この２本の準幹線的な墓道と接合する幹線的な墓道を谷間の底部の小河川付近にあると考えてよいであろう。また，王丸の集落の西側に広がる耕作地に，さらに大きな道の存地を考えられる。

このようにみると，水野氏の考えにあわせれば，上記の準幹線を「枝道」・幹線を「幹道」とすることができるし，「根道」については集落跡が不明確であるため確定できない。

出土土器について

王丸浦ノ田古墳群で出土した出土遺物（須恵器・土師器）の形態について細分してみると次のようになる。

須恵器

坏蓋

Ａ類　口縁部が直立し，口唇先端部に沈線をみる。天井部・体部間に，本来ならばもつものである。２号墳出土の４がそれにあたる。

B_1類　口縁部が外反し，口縁部内面に沈線をみる。2号墳の3にあたる。

B_2類　口唇部に段的な調整をし，口唇端部外反し，口縁部は割合に直立している。口径15.0～16.0cm前後を測る2号墳出土の2・5があたる。

B_3類　口唇部に段的な調整をもち，口縁部が直立している。口径13.2cmの2号墳出土の1があたる

B_4類　口唇部を丸くおさめ，口径15.0cmを測る1号墳出土の9があたる。

B_5類　B_4類と同じ口唇部をもち，口径11.8～13.3cmを測る1号墳出土の4・5があたる。

坏身

B_1類　受部からの立上りが割合に直立し，口径13.0cmを測る2号墳出土の6がそれにあたゆる。

B_2類　受部からの立上りは内傾し，短いもので，口径13.0cm前後・受部径15.0～15.35cmを測る。1号墳出土の10・2号墳出土の7があたる。

高坏

B_1類　高坏脚部に2段の長方形透孔をもつもので，1号墳出土の2・8がそれにあたる。

B_2類　低い脚部に5ケ所の円形の透孔をもつもので，1号墳出土の3があたる。

𤭯

B_1類　頸部にヨコナデ調整をもつ1号墳出土の6があたる。

B_2類　頸部にカキ目調整を施したもので，1号墳出土の11があたる。

B_3類　頸部に2条の沈線を2ケ所にもち，沈線間などに，縦方向のカキ目状調整をみる1号墳出土の7がそれにあたる。

土師器

坏蓋

B_1類　坏部外底部にカキ目をみるもので，1号墳出土の13・17がそれにあたる。

器名	器種	分類	II A期	II B期	III A期	III B期	IV A期
須恵器	坏蓋	A類		←→			
		B_1類			←→		
		B_2類			←→	←→	
		B_3類			←→	←→	
		B_4類			←→	←→	
		B_5類				←→	
	坏身	B_1類			←→		
		B_2類			←→	←→	
	高坏	B_1類				←→	
		B_2類				←→	
	𤭯	B_1類				←---→	
		B_2類			←---→	←---→	
		B_3類				←---→	
土師器	高坏	B_1類			←---→	←---→	
		B_2類				←→	

第 2 表　土器分類と時期の対象表

B_2類　坏部が丸底的な坏をもつもので，1号墳出土の12があたる。

以上，出土土器の形態をやや多めに分類をおこなったが，一般的に，王丸浦ノ田古墳群出土の土器は次のことがいえるようである。

1．口径の大きい須恵器の坏蓋・坏身にはヘラ記号がない。

2．ロクロの廻転は，坏が左廻りで，他は右廻りである。

3．1号墳の石室内出土土器は一般的には新しく，墓道部右側の段築の平担部出土土器は古い要素がある。

また，形態分類を小田氏編年に対応すれば，第2表のようになるであろう。

古墳の築造年代について

王丸浦ノ田古墳群の立地状況などや，出土土器の検討をおこなってきたが，これらを参考に築造年代などをおさえてみたい。

1号墳出土土器の須恵器の坏蓋はB_4類・B_5類で，坏身はB_2類である。坏蓋B_4類・坏身B_5類すなわち墓道部右側の段築平担部出土土器は小田氏編年のⅢＢ期に近いⅢＡ期であろう。他は，ⅢＢ期に比定できよう。

2号墳出土土器の須恵器の坏蓋はＡ類・B_1類B_2類・B_2で，坏身はB_1類・B_2類である。坏蓋B_1類・B_2類と坏身B_1類はⅢＡ期に比定できる。

このようなことから，1号墳は6世紀中頃に築造され，2号墳は1号墳より先行するものであろう。

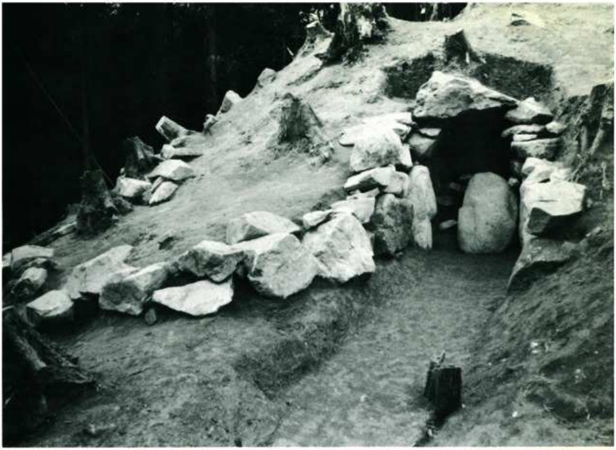
よって，王丸浦ノ田古墳群の中で，2号墳が一番目に築造され，先に2～4号墳の支群が立地の関係の上でも，早く古墳築造のための選地をおこなったであろう。

なお，2号墳の資料は表面採集のものであるため，今後，改める必要があるかもしれないことを付け加えておきます。

図　　版

図版１　〔上〕１号墳発掘調査前全景（東南より）・〔下〕同上（西より）

図版 2　〔上〕1号墳発掘調査後全景(南より)・〔下〕同上



図版 3 〔上〕１号墳羨道全景（東南より）・〔下〕１号墳列石出土状況（西南より）

図版 4　〔上〕 1 号墳墓道部全景(墳頂より)・〔下〕 1 号墳周溝埋土状況

図版 5　〔上〕1号墳羨道部状況・〔下〕同上

図版 6

〔上〕 1号墳石室奥壁部

〔下〕 1号墳石室天井部

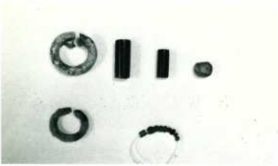
3

9

10

11

17



6

図版 7　王丸浦ノ田古墳群出土遺物

図版 8

〔上〕 2 号墳墳丘

〔中〕 2 号墳奥壁部

〔下〕 3 号墳石室

王丸浦ノ田

昭和59年3月31日発行

発行者　前原町教育委員会
糸島郡前原町大字前原623

印刷所　赤坂印刷株式会社
福岡市中央区大手門1丁目8－34